

▼アラノンジ―静注用 [注]

【重要度】★★ 【一般製剤名】ネララビン nelarabine 【分類】抗悪性腫瘍剤 [代謝 (プリン) 拮抗剤]

【単位】▼250mg/V [50mL]

【常用量】■1500mg/m² (体表面積) [1, 3, 5 日目に投与しその後 16 日間休薬を 1 クール]

【用法】1 回 2 時間以上かけて点滴静注 [希釈しない]

【透析患者への投与方法】設定されていない (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】未変化体および活性代謝物の ara-G は一部腎から排泄され、腎機能障害のある患者では血中濃度が上昇するおそれがあるため慎重投与 (1) Ccr 50mL/min 未満の患者への推奨用量のデータは十分に得られていない (1)

【特徴】T 細胞急性リンパ芽球性白血病, T 細胞リンパ芽球性リンパ腫に適用。

【主な副作用・毒性】神経毒性が用量規制因子。傾眠、末梢性ニューロパシー、感覚減退、錯覚、てんかん様発作などの神経系障害、血球減少、錯乱、横紋筋融解症、TLS、肝障害、血清電解質異常など。重度で不可逆的な神経障害が治療の継続を妨げる因子である (Sanford M, and Lyseng-Williamson KA: Drugs 68: 439-447, 2008)

【代謝】アデノシンデアミナーゼによって活性代謝物である ara-G に変換される (1)

【排泄】尿中回収率ネララビンとして 5%, ara-G として 23% [iv, 24hr まで] (1) 3

【CL】ネララビン: 150~250L/hr, ara-G: 13L/hr (1) 腎 CL: ネララビン 16.4L/hr, ara-G 4.9L/hr (1) 0.213L/hr/kg (Kisor DF, et al: J Clin Oncol 18: 995-1003, 2000)

【t_{1/2}】ara-G: 3hr (1) 未変化体: 16.5min, ara-G: 3hr (Kisor DF, et al: J Clin Oncol 18: 995-1003, 2000)

【蛋白結合率】25%未満 (1)

【Vd】ネララビン 115L/m², ara-G 45L/m² (1)

【MW】297.27

【透析性】資料なし (1) ある程度の透析性はあると思われる (5)

【O/W 係数】LogP=-0.92 [1-オクタノール/0.15mol/L 塩化カリウム溶液] (1) 【薬物動態】ara-G として線形で PK に性差はないが、小児は成人より CL が大きい (Kisor DF, et al: J Clin Oncol 18: 995-1003, 2000)

【更新日】20170727

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。